涌小通信

知内町立涌元小学校
〈学校教育目標〉
よく考える子　思いやりのある子　健康な子

重点教育目標「 粘り強く学び　最後までやり切る心をもった子供の育成 」　　令和4年11月29日発行

お子さんの目を見ながら話をしてあげてください

校長　柳澤　満

いよいよあと少しで令和４年も最後の月になり、月日の過ぎる早さを改めて感じます。この一年、それぞれの子供たちの胸にいろいろなことが刻み込まれていることでしょう。冬休みまでの一ヶ月ほどを今年最後のがんばりとして、全力で乗り切ってほしいと思います。また、「終わりよければ全てよし」という諺のように、よい年として１２月を終わらせたいと思います。

なお、これからは、各教科ともまとめやテスト、実技の評価などが続きます。家での学習も大切になってきますので、ご家庭でもぜひお子さんの学習に目を向けてほしいと思います。よろしくお願いいたします。

さて、テレビのニュースや新聞等からは「不況」「不景気」という言葉が日常的で継続的なものとなり、最近はなんだか違和感がなくなってしまいました。

先日、私のきょうだいと話していたら、「みんな不況とか不景気というけれど、そんな感じはしないぐらい、今の子供たちはいろいろなものを持っているよね。」という話題になり、自分の子供の頃を思い出してみました。

まず、家族そろって、外食に行くことは、ほとんどありませんでした。行くとしても、時々、デパートの食堂ぐらいでした。しかし、今は、回転寿司とか焼肉のお店屋さんは、休日などは、すごい人ですね。私は、子供の頃、寿司というと、家でつくる「手巻き寿司」のことだと思っていました。

また、ゲームやおもちゃなども買ってもらうのは、誕生日とクリスマスぐらいでした。それも、チラシを見て、親がこの中から選べという中から選びました。私はきょうだいが多かったので、安いものしか、買ってもらえませんでした。友達の中で、当時、出始めのテレビゲームを持っている子を見ると、うらやましくてたまりませんでした。

以前、あるテレビ番組の中で、北野武さんが「子供にとってある程度の貧しさとは、我慢と工夫を覚える一番いい教育なんだよ。」と言っているのを聞いて、なるほどと思いました。

確かに昭和の時代は、「もの」はなかったけど、その分、それを手に入れたときのうれしさは格別で我慢と喜びの感受性が自然と磨かれていきました。また、ゲームなどがなくても、自分たちで工夫して遊びを考えることができました。

現在、スマホ、パソコン、ゲームと子供たちのまわりには便利で楽しいものが氾濫しています。

不況・不景気と言われながらも、今の時代の子供たちのほうが「もの」は豊かです。しかし、「もの」はあっても「心」が育つとは限らないのが難しいところなのです。

令和の時代は、人が集まっても、視線は下に向いて、スマホやゲームが中心になることが多いです。だからこそ、時々は、お互いに正面に座って目を見ながら、ゆっくりと話す時間を作ってみることも大切なことだと思います。そういった時間が、親子のふれあいや子供たちの感受性を深めるきっかけになると思います。師走をむかえ、保護者の皆さんの子供の頃の話などをしてみる機会をぜひつくってあげてください。